

コケの目線で自然観察 2

ハエを利用する変わったコケ「マルダイゴケ」

自然観察指導員 中澤 和則

中之条町野反地域で生育を確認

マルダイゴケは高山性のコケで動物の糞や腐敗した遺体の上に生え、群馬県では至仏山で記録されている。

野反地域で最初に確認したのは、2014年自然観察会開催の事前調査のときで、標高1580m、登山道沿いの砂礫の間に生育していた。コケの草丈は約1cmでコケに関心が無ければ見落とされ、一部のコケマットは登山者に踏みつけられていた。



登山道のマルダイゴケ

マルダイゴケの変わった生態

コケ植物は蒴の中に孢子を形成し、熟すと孢子が風によって運ばれることで分布を広げるのが一般的であるが、マルダイゴケは粘りのある孢子をハエの体に付着させて分散させる。蒴が熟すとハエが好む臭いを発散させ呼び寄せているのである。動物の糞や遺体を生育基物とするマルダイゴケの変わった生態である。



マルダイゴケにとまるハエの一種 (中村一雄氏撮影)

野反地域におけるマルダイゴケの現状

マルダイゴケは蒴を付けていないと見つけにくい。野反地域で2014年から継続的に観察しているが現在2区域で確認し、早春から晩春まで蒴のついているマルダイゴケを観察することができた。ただ、蒴が熟し孢子を散布できる状態が見られるのはハエなどの昆虫が活動できる時期と重なる。晩秋に見られるまだ未熟な蒴はそのまま越冬し、雪解けと共に蒴が熟すと思われる。



未熟な蒴をつけている (10月)

新しい糞に運良くハエによって孢子が運ばれ、生長が始まると仮根によって糞が地面に固着する。糞を見つけそっとつついて動かなければマルダイゴケのマットが形成

されていることが期待される。しかし、登山者によって知らずのうちに蹴飛ばされて移動したり、それ以上に野生動物（おそらくイノシシ）による掘り起こしで散逸したりすることも多い。現在、新鮮な動物糞にマルダイゴケがどのように生育していくかを追跡しているが、糞は移動したり無くなってしまふことが多い。糞のある場所をよく特定しておいても自然状態では分からなくなってしまう。



移動して再度固着しているコケマット

なお、糞の上でマルダイゴケが生長を始めていれば、蹴飛ばされたり多少粉碎されたりして移動してもその場で新たに地面に固着し生きている姿も観察されるので、高山に適応するコケ植物のたくましさの一面を実感させてくれるのである。

参考文献

- 伊沢正名：糞上の麗人「マルダイゴケ」、生きものやキノコ好きの自然ガイドこのは No.7 コケに誘われコケ入門 32-33 文一総合出版（2014）
- 井上浩：フィールド図鑑 コケ 東海大学出版会（1986）
- 岩月善之助：日本の野生植物 コケ 平凡社（2001）
- 永野巖，木口博史，小池長壽：群馬県産蘚類目録，群馬県植物誌改訂版 群馬県・群馬県高等学校教育研究会生物部会（1987）
- 樋口正信：化学的擬態ー虫をあざむくコケー，コケのふしぎ 156-157 ソフトバンククリエイティブ株式会社（2013）